九津見房子の事件を詳述せしは彼女が幸徳時代よりの古き社會主義者で又婦人運動をもなす者で無國の女者と社會主義者として掃部の注意を拂ふに足る者なるによりのである

この間は社會運動の表面のみな現れざりしも内面に於ては借家同盟の社會主義者堺と交渉をしつゝ自分は印刷工場の女工となり時機の至るを待ちつゝありたる所大正十一年の十二月頃奥むめおの下板するに會し人に共鳴する所ありて山内みな堺と何事か畫策する所あるも未だ表面に表れざりしが堺、荒畑、山川堺の一派の人々は彼を以て再び社會運動をなすべき気力なき者

みして基二の西川文子の如き婦人を加へるもこれは彼堺荒畑の間の私事を原因するものである。

中島根貞代

中島根貞代は中島根源和の妻でありし頃より板敷負ふ轉じて社會主義者の群に入り赤瀾會成立の頃より実際運動に從事し大正十一年一月のみは赤旗を振りて上野署に検挙され三崎會館や青年會館等の演壇にも立ちて直接行動を高唱したることもあり益々大正十一年十一月堺貞枝(西)大源孔雀と共に出版